

2010年(平成22)1月

カルメル 霊性センターニュース



パルマ・ペキオ 1480-1528 聖家族 ルーブル博物館

1月

250号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第一卷

第15章 愛徳のためにおこなう

1 神は心を見る

どんな事柄やどんな人に対する愛のためであれ、悪をおこなうことはゆるされない。しかし、私たちの助けを待っている人のために、時には寛容な心をもって、おこなっている善行を中止し、それ以上の善行に代えることもある。その時、先の善行が失われるのではなく、よりすぐれた善行に代えられるのである。愛徳がなければ、外部的などんな善行も役に立たないが、愛徳のためにおこなわれることは、どんなにささいな取るに足らないことも、非常に効果あるものとなる。神は行為そのものよりも、意向がどのようなものであったかを重視される。

2 落とし穴

多く愛する人のおこないは豊かに実る。良くおこなう人は、多くをおこなう人である。自分のためよりも、皆のために奉仕する人は、良くおこなう人である。また、事をおこなう場合、愛徳から出ているように見えても、邪欲から出ている場合がしばしばある。なぜなら、自分の性質、自分の意志、報酬の望み、または安楽への執着が、人間の行為に入りこんでいないことは、めったにないからである。

心の泉



神との親しさを生きるために
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd - 1 -



マリアよ

わたしはあなたを眺めます

あなたの祈りは わたしたちに
祈りが何であるか教えてください

祈りとは
自分のうちに
何も残しておくことなく
全存在をもって
神へ向かう動きであること

新しい年がまた巡ってきました。今年は寅年・・・どんな年になるのでしょうか。神の母の祝日ではじまるこの新しい年がキリストの母、教会の母マリアのご保護のもとに、一人ひとりにとって「よい年」となりますように。

マリアは自分自身を見ることがありません、神と一致すること以外に心を砕きません。自分のことを忘れ、かえりみないこの純粹さ、これこそがマリアのうちで神がご自身の愛を注がれるようにさせたのです。*
神はマリアを神の母、人類の母と選ばれました。といってもマリアはその当時のイスラエルの娘たちとなにも変わることはない平凡な生活を日々過ごしていました。21世紀の日本で生きるわたしたちにとって、時代も地理的位置づけも異なりますが、とるべき神に対する姿勢に変わりはありません。母マリアに倣い新しい年の日々自分をかえりみない純粹さを母マリアに願いましょう。

母がそこにおられる、闇のなかで見守っていてくださると知ることは、子供の心を喜びに躍らせます。力を新たにし、希望を立て直し、光と平和をもたらせます。*

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに
聖母の騎士社、2009、525円

霧氷

九里 彰

先日、蓼科へ行く機会が与えられた。雪はまだ降っていなかったが、紅葉はすっかり終わっていた。初冬の寂寥とした風景には、夏とは違うそれなりの味わいがあった。落葉し裸になった木々の間からは、夏にはまったく見えなかった別荘があちこち透けて見えた。

午後、閑散とした蓼科からさらに霧ヶ峰の方へドライブに行ったところ、文字通り霧の中に突入し、あっという間に何も見えなくなった。八島湿原で少し散歩しようとしたが、真冬並みの寒さで、長く歩くのは無理。結局、15分～20分歩いて、凍死する前に車に引き返した。

しかし、その短い散歩の間、初めて霧氷を間近に見た。木が敷き詰められた散歩道の両側に、いろいろな木々が雪をかぶったように白く輝いていた。実際は、氷点下時に、霧が氷結してできた霧氷であった。風向きや木の枝の形に応じて、実に千差万別の姿になっている。まさに氷の芸術だ。5センチ、10センチと、はけのようについているものもある。さわるとシャーベットのようにくずれる。

シーンと静まりかえった、うっすらと白い霧のかかった湿原に次々と目の前に立ち現われてくる霧氷のシルエットは、実にこの世のものとは思えない幻想的な美しさであった。一つひとつの木々がそれぞれ独特な霧氷をつけ、風でゆらゆらとゆらぐ時などは、圧巻であった。(人の魂も本来このようなものか……)

町にもどると、街路樹がクリスマスのイルミネーションで華やかに飾られていた。美しいことは美しいが、自然が作り出す霧氷の美しさには到底及ばない。

無数の美をまき散らしながら

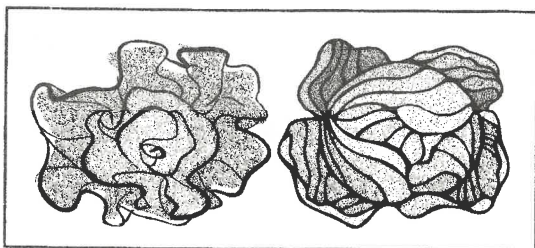
これらの林をいそいで過ぎてゆかれたのです

そして、通りすがりにごらんになったのです。

彼はみ顔を向けただけで、かれらに美をまかせ

あとに残してゆかれたのです。(『霊の賛歌』第五の歌)

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (128)



あいまいな世界で誠実に生きること

私たちの心や精神は、明確さを望んでいます。私たちは、状況の明確な姿や、物事をまとめる明確な考えや、自分自身や世界の問題に対する明確な洞察を持ちたいと望んでいます。けれども、自然において色や形がはっきりと区別されずに混ざり合っているように、人間の生活も、私たちが探しているような明確さを提供してはくれません。愛と憎しみ、善と悪、美と醜、ヒロイズムと臆病、世話と無視、罪と清廉潔白さなどの境界は、たいていぼんやりとあいまいで、見分けることが難しいのです。

あいまいさに満ちた世界で誠実に生きることは、やさしくはありません。まったく確実であることを必要とせずに、私たちは賢明な選択をすることを学ばなければなりません。

(0327)

先入観で判断しない生活に向けて

もっとも難しい霊的なわざは、先入観なしに生きることです。時々、私たちは、どれほど深く先入観に支配されているかに気づきもしません。私たちは、皮膚の色や宗教や性的傾向や生き方が異なっている人々に、平等に関わっていると考えているかもしれません。ところが、具体的な状況において、私たちの自然発生的な考えや、不用意な言葉や、条件反射的な反応は、しばしば、私たちの中になお先入観が存在していることを証ししています。

異邦人、私たちと異なっている人々は、恐れや不安や疑いや敵意をかき立てます。彼らは、単に「異なっている」というだけで、私たちの安全意識をおびやかします。神が私たちを無条件的に愛しておられることを、私たちがほんとうに主張し、「あの異なった人々」も神から等しく愛されていることを注意深く眺める時のみ、私たちは、人類における偉大な多様性は、神の心の無限の豊かさの表れであることを発見できるようになるのです。その時、人々を先入観で判断する欲求は、徐々に薄れてゆくのです。

(0308)

(九里 彰訳)

主の洗礼 ルカ 3, 15-16. 21-22

「天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降ってきた」
(ルカ 3, 21-22)。

イエスの上への聖霊の働きかけは、その懐胎のときからはじめて生涯にわたって継続して行くのですが、鳩のような「目に見える姿」で降るのは、この洗礼の場面だけです。マリアへのお告げの時には、「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む」(ルカ 1, 35)とだけ言葉で告げられ、可視的な現象は何も言及されていません。ここでは、「目に見える姿で」と明記され、人々へのしるしとなることに強調点が行っています。また、聖霊は、イエスに何か新しい次元を開くと言うよりは、むしろ、人々にはまだ知らされていないイエスの人格の内密、使命、働きを公に知らせる契機となるのです。

福音の記述は、「鳩のように」と「鳩」に注目させますが、ここで思い起こすべきは、確かに、ノアの洪水に終了を告げたオリーブの枝をくわえた鳩の記述です(創世記 8, 8-12)。この鳩は、罪に支配された世の終わり、新しい創造、新しい神に祝福された民の始まりを告げ、また、永遠の神と被造界、そして民との契約を告げています(創世記 9, 1-19)。イエスの洗礼は、罪に閉じ込められ罰せられた世界の終焉、新しい創造、新しい永遠の契約、新しい神の民の開始を告げるものです。また、雅歌に目を転じてみると、鳩は、神に愛された、そして神の愛に誠実に応える民の象徴となっています。

イエスの洗礼は、罪に支配された古い人間との連帯を徹底すると同時に、新しい神の民の過ぎ越しの先頭に歩むイエスの構えを、その公の生涯の初めに描いているのです。この過ぎ越しを、イエスは十字架の死に完結することになります。「しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう」(ルカ 12, 50)。また、イエスの受難と死は、過ぎ越しといわれています。「エルサレムで遂げようとしておられる最期」(ルカ 9, 31)、「最後」と訳される単語は、「脱出」を意味しており、ここでは、イエスは、新しい決定的な出エジプトを実現し、その後が続いて、新しい神の民が、罪と死の奴隷状態から自由への過ぎ越しを歩んで行きます。わたしたちも、洗礼によってイエスの民の一員となり、過ぎ越しの旅に入れていただくのです。

ルカ 渡辺幹夫

主 の 公 現 (C)

“時のしるし” (マタイ 2 : 1 ~ 12)

“私たちは今日の祝日に、三つの不思議な出来事を祝います：今日、一つの星が東方の三人の博士たちを馬小屋に導きます、今日、カナの婚宴でキリストは水をブドウ酒に変えられます、そして今日、キリストは私たちの救いのために、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられます。”このように典礼は今日の祝日を描写しています。今日の祝日はキリストの三重の公現によって成り立っています。小さなイエスは馬舟の中で博士たちに、カナの婚宴でイエスは招かれた人々に、そしてヨルダン川で洗礼を受けられるイエスはそこにいる人々に、ご自分を現されます。時の流れのなかで、これら三つの出来事が一つの祝日となってきたのは、主の公現（ギリシャ語のエピファニア）が共通のテーマであったからです。これらの出来事の中で、イエスはだんだんにご自分が真のメシア、世の救い主であることをはっきりと示されていきます。

キリストは全人類に、あらゆるカテゴリーの人々にご自分を現わされます。誰にでもわかる、それぞれに合ったしるしをもって。素朴で単純な羊飼いたちには、天使を遣わし、占星術の学者たちには星を送り、そしてしるしにこだわるユダヤ人には奇跡をもって；イエスは水をブドウ酒に変えられます。今の時代を生きる私たちにはどのようなしるしをもってご自分を現わされるのでしょうか？第二バチカン公会議は、現代世界憲章の“時のしるし”に私たちの注意を引きました。これらのしるしには共通して団結と相互依存の意識があり、この共通の意識は、国家間で、キリスト教一致の運動において、信徒の価値を再評価するなかで、ウマンリブの運動で、そして宗教の自由についての新しい意識に影響を及ぼしています。

”時のしるし“についてイエスが話される時、何よりもまず救世主的なしるしを強調されます。”目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。“(マタイ 11 : 5)。今日、このようなしるしはあるのでしょうか？あります！確かにあります！盲人は神の言葉に触れ信仰と希望の光を与えられています。霊的に（時には身体的に）足の不自由な人は神の恵みの中で起き上がり、歩きだしています。悪魔によってまたは他人のために、自分の中に閉じ込められている人はその鎖を解かれて自由にされています；要するに、人々は回心の恵みを得て、キリストと聖霊の力によって生きています。

キリストの公現のしるしは、私たちにも、はっきりと示されています。私たちはこれらのしるしを発見し、評価し、自分自身がこの世にあるキリストの現存となる使命を持って生きています。

(Sr. Paulina)

年間 第2主日 (C)

(ヨハネ 2 : 1 ~ 12)

本日の福音は、イエスがカナの婚姻で水をぶどう酒に変えたお話です。イエスが水をぶどう酒に変えたことは、福音に記されている最初の奇跡と考えられています。イエスは清めの儀式のために20~30ガロンの壺を6個使用したとあります。イエスは給仕たちに「ふちまで入れなさい」と命じました。イエスはこの水の壺をぶどう酒の壺に変えました。別の給仕がぶどう酒を味わって、花婿を呼んで言いました。「誰でも初めに良いぶどう酒を出して、酔いのまわったところに、質の落ちるものを出すのですが、あなたは良いぶどう酒を今までとっておかれました。」

私にはこの空の器は私たちの人生を表しているように思えます。私たちは神に造られて、満たされようとしている壺です。度々私たちは自分自身を自分が望むもの、意味をもたらすと思うもので満たそうとします。しかし神は、まず私たちを洗い清める水で、それから良いぶどう酒、最後に最も良いぶどう酒で、ふちまで私たちを満たそうとされます。ふちまで満たされた良いぶどう酒は、他の人たちに私たちの特性、私たちの中にある何か特別のものに気づかせます。私たちは勿論いっばいに満たされたい、本当のものが欲しい、器を満たす良いぶどう酒を持ちたい、とすぐに言います。しかし残念ながら、それほど簡単ではありません。私たちが自分の人生のために水に入ることを望まないならば、神とは誰であるか、キリストは誰であるか、キリストは私たちがどのように生きるように呼ばれているかを受け取ることはできないということの意味しています。度々私たちはイエスが私たちに立ち向かわせるものから逃れたいと思います。全てを捨てて従うように言われるとき、イエスはきっと私たちの仕事や家族のことを考えに入れるのを忘れたのだと思います。他人を裁くなと求められるとき、私たちは神の基準に合わない人たちを指摘せざるをえません。飢えた人に食べさせ、裸の人に着せ、病人を訪問するようにイエスが語るのを聞くとき、きっとイエスは文字通りではなく、比喩的に話しているのだと確信します。私たちは自分に問わなければなりません、私たちは良いぶどう酒に対しての準備ができているのでしょうか？本当にふちまで満たされたいのでしょうか？水に入ることは飲み込まれるよりたやすいのでしょうか？

ですから、福音が要求するより少なく決めないようにしましょう。私たちは良いぶどう酒に満たされているのです—コリント人へのパウロの手紙は、私たちの器の中味について語っています—私たち各々が持っている智恵や知識、預言、癒し、信仰など多くの賜物について。神がどれほど独特に、すばらしく私たちを作ってくださっているか、奉仕するために神はどれほど多くの方法を私たちに持たせてくださっているかについて私たちは希望をもって学ぶことができます。私たちは自分が誰であるか知っています、私たちはキリストが私たちに求めていることを知っています。任されるものを他人のために奉仕や犠牲をもって大胆に注ぐべきです。水かぶどう酒か、空っぽかふちまで満たされているか、安い代用品かイエス・キリストの要求する報いのある福音か、選択は私たちにあります。

(Sr. Paulina)

年間第三主日 ㊦ 1, 1-4. 4, 14-21

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」(㊦ 4, 21)。

今日の福音は、イエスの宣教活動の最初の場面です。最初と言うことは、始まりでもあり、原点、常に戻ってゆく基本姿勢と言う意味でもあります。そして、イエスの活動とは、その地上の生涯の間の働きと言うだけではなく、十字架の死と復活、そして、天に上げられ御父の右に座し、教会に聖霊を送り、今も働いておられるイエスの永久に変わらない姿勢でもあるのです。

イエスは、その活動を旧約聖書のイザヤの預言の言葉を引用しつつ始めました。「主の霊がわたしの上におられる。……主の恵みの年を告げるためです」と。そして、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と断言される。「主の恵みの年」、これは、ユダヤの人々の言葉では「ヨベルの年」と言われる年です。旧約聖書の規定で、五十年ごとにこのように呼ばれる年がめぐってくるようになっていました。この年が宣言されるとその時点ですべての借金は返済の義務から解かれ、奴隷とされていた人たちも解放されて自由なものとされ、借金の抵当に入っていたもの、特に土地、神が与えた「嗣業の地」は、本来の所有者に無条件で返還されるはずでした。そして、人々は、すべての隷属、負債から免除され新しいものとしてまっさらな状態に戻され、また始めからやり直せる、そんなありがたい年なのです。イザヤの予言は、この神の恵みの年を単なる理想にしておくのではなく、実現する方が来られると予言していたのです。

イエスは、この預言が無条件に実現するのは御自分においてであると宣言されます。ヨベルの年に本来の所有者に戻される「嗣業の地」は、土地と言うよりも、わたしたち自身の存在、命です。神からわたしたち一人一人に与えられた生命です。しかし、わたしたちは、この命を自由なものとしてよりは、罪と死に売り渡されたものとして生きているのではないのでしょうか。「ところで子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。死をつかさどるもの、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死に恐怖のために、生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした」(㊦ 2, 14-15)。イエスは、今日も、わたしたちが御言葉に心を開く時、この解放の働きを実行し続けていてくださいます。

ルカ 渡辺幹夫

「このうち最も優れているのは、愛。」

(Iコリント13:4~13)

今週の日曜の黙想は、Iコリント13:4~13からの2度目のものです。これは多くのキリスト者が好む節です。私たち皆が望み、私たち自身の生活や人間関係の中で得ようと努力し、希望する愛に対する感激的で美しい章です。私たちは愛を愛します。私たちは愛について書き、歌い、夢み、演劇や映画にします。結婚式で度々読まれ、新しい人間関係を始める若い夫婦の基準を定め、一緒に生きる彼らの生活はどのようなものであるかの道案内となっています。ときに愛の最上の行いは、喜びや幸福と同様に犠牲や喪失に私たちを導きます。コリント人への手紙は正直な見方を示してくれます—情熱や妬みではなく、真実の愛は自分自身のためではなく他人のために最もよいものを望みます。急いだり急激に進むのではなく、真の愛は忍耐します。真の愛は押し進んだりともに受けとめるのではなく、自慢したり無礼を行ったりすることはありません。愛は度々単なる名詞として使用されます—状態や、目標点や、到達できるゴールとして。しかし、聖書では愛は実際に行動する言葉、行う言葉、忙しく働いている言葉であることを示しています。この章を読むまで、私たちの愛が書かれている意味までどれほど到達していないかということに打ちのめされます。

しかし恐れてはなりません。人間の愛がだめなとき、神の愛は変わらない不動のものです。私たちの愛は人間や、信仰、生活様式、行動などで制約されていますが、神の愛は無条件で常に私たちの弱さをゆるしてください。私たちの愛は過ぎ去るものであり、変わりやすいものですが、神の愛は永遠です。私たちが行うどんなことも、犯すどんな罪も、どんな過ちも、何ひとつ神に私たちを愛するのをやめさせるものではありません。聖体拝領のテーブルにつくとき、「キリストは私たちが罪人であったのに私たちのために死んでくださった。これは私たちに対する神の愛を示しています。イエス・キリストの名においてあなたはゆるされます」。私たちは愛されています、完全に、無条件に、罪人や、取税人、売春婦、癩病人、汚れた人、悔い改めていない人、貧しい人、金持ち、パリサイ人、学者、老若男女すべての人のため、私のため、あなたのために、キリストは命を捨てるほど愛してくださっています。

愛というこの信じがたい贈り物により、神は私たちが何度嫌な顔をしても私たちを愛してくださっているという信じがたい確信により、私たちは愛を分かちあう自分自身のやり方を知り始めることが出来ます。私たちはパウロの書いていることを全てでできるでしょうか？私には自分たちがそのような完全を達成できるとは思いません。しかしどれほど多くの生命に触れることができ、どれほど多くの心に達することができるか、神の愛のうちどれほど多くの愛を広めることができるかを想像してごらんください、ちょうどやってみている途中です。イエス・キリストの肢体として、愛が対抗できないことは何ひとつないことを、その信仰、希望、忍耐には限界がないことを知っています。世界の兄弟たちに対して主の愛の証し人となりましょう。

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (32)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ドウルエロ

ドウルエロ (アヴィラ) に、十字架のヨハネは、1568年の11月に改革カルメル会の最初の修道院を創立しました。それに先立つ二カ月間、彼はすでに農園の小屋を修道院、というよりは小さな修道院にするために (この家を、アヴィラの聖テレジアは、『創立史』(14,6)の中で「ベトレヘムの小さな玄関」と呼んでいる)、すでにそこにおりました。その後、イエスのアントニオ神父がやって来た時には、聖人はドウルエロ周辺の小村にキリスト教の教えを説いたり、説教することに献身していました。聖女は、この使徒職を大変喜びました。この活動は、その地方の貧しい人々にとって、とても有益なものだったからです。

十字架のヨハネは、自分の兄、フランシスコ・デ・イエペスを、村々をめぐる時、何度か連れて行きました。兄は、弟の身に起こったことについて物語りました。告解を聞き、説教し、ミサを挙げた後、ヨハネとフランシスコの二人は、大急ぎで小さな村を離れ、ドウルエロにもどりました。善良な農民たちが気づいた時には、二人の姿はもう跡形もなく、彼らの後を追いかけてきました。

二人が一緒に泉のそばで少しのパンを食べていた時、村人たちは彼らにやっと追いつきました。村の神父の使い、もしくは使いたちが、神父と食事するためにもどるように彼らに求めました。ヨハネ修士は、それはできないと弁解しました。彼は、兄と二人だけになった時、こう言いました。

「私たちに對する施しを受けることはできません。というのも神のためにしたことによって、人間から報酬や感謝を受けたくないからです」。

ドウルエロで過ごした最初の日も、聖人は、一日中、働いた後、パンだけ、そして何杯かの水を飲みました。後にこれについて彼はこう語りました。その時彼は、まるでキジのとさかを食べたかのように、「キジ以上の満足をもって」時を過ごしたと。この種類の鳥は、「王子の軽食や王室の食卓に供されるものとして知られ、見なされていました」。

— 祈り —

私の主、神よ、
あなたは、私を、長く暗い道、
岩肌の険しい道によって、導いてくださいました。
何度も、力が尽きてしまいそうになりました。
再び光を見るという希望を、ほとんど失ってしまったようでした。
私の心が、最も深い悲しみにとらわれて、力を失いそうになったそのとき、
私のために輝く星が昇ったのです。

司祭は私を祭壇へと伴い
私は顔を傾けます——
聖なる水が私の頭の上を流れます。
主よ、人生の半ばを過ぎた者が
再び生まれることができるのでしょうか。
あなたはできると仰せになりました。そして、それは私の上に成就したのです。
罪と苦しみの重荷を負った長い人生は、
消え去りました。
まっすぐに立って、私は白い衣を受けました。
私の肩に掛けられたその衣は、
清さの輝かしかたどりです！
手にはローソクを持っています。
その炎は、私の奥深くで、
あなたの聖なる命が輝いていることを表しています。

私の心は、あなたの馬槽になりました。
その馬槽はあなたを待っています。
でも、もうすぐです！
あなたの母であり、私の母でもあるマリアさまは、
私にご自分の名をくださいました。
真夜中になれば、私の心の中に
生まれたばかりの幼子を置いてくださることでしょう。

ああ、どんな人の心も、極めることはできません、
あなたがあなたを愛する者のために
何を備えていて下さるかを。
今や、あなたは私のもの、もう私はあなたを去らせたりはしません。
人生の旅路がどこへ私を導こうと、
あなたは私とともにいてくださいます。
何ものも、あなたの愛から私を引き離すことはできないのです。

詩「ローザの洗礼によせて 1936年12月24日」より

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(奉皇カルメル会歌・編)

心のシケ

種々の仕事が重なる時、(例えば台所の手伝いとか接客の準備、あるいは私に多く降ってくるあの仕事とか、あのクラスで話す内容のことなどなど) しかもそれが、期日間に合わないとか先方に大変なご迷惑をかけてしまうような種類は、もし忘れたままなら、冷静な自分そのものでいられたはずなのに、思い出した途端から、まるで別人になったように心中がテンヤワンヤの大騒ぎになるのです。どうしよう と焦れば焦る程、心は空虚になり、まるで何も浮かばなくなってしまうのです。この心中の各部屋から聞こえてくる“わめき”にも似た感覚の重い荷物が、あたかも海のシケのように、押し寄せては返し、返しては押し寄せてきます。こんな時、心臓はドキドキと高鳴っているのが普通でしょうが、本人の自分はその高鳴りに気がつかず、荒波に揺られて右往左往するだけなのです。このような状態をそのままにするならば、確かに息切れはするし、身体的にも苦しくなってくるでしょう。こうなると、平常“祈り”の気持ちで平静を保っていたとしても、それは瞬時に瓦解してしまい、荒れた感覚だけが心中で叫びます。そして関係のない周囲にも不機嫌さを伝播してしまうのです。

このような自分の心中の景色を見ることは大切なのですが、こんな時に、その心中に同居している望遠レンズで心中を見る余裕が出てくるのでしょうか？これはなかなか難しいことだと思えます。出来ないからこそ、心に燃え上がった感覚が“イヤーダ！！”と叫んでみたり、動作が鈍ってきたりするのだと思えます。当たり前と言えば当たり前のことなのですが、このような重い荷物はなるべく 背負わないようにしたいものです。

人生の終点は皆違いますが、それを自分で見極めることはできません。ここが神様の“愛”なのだと思います。もし分かるなら、人はみな自分の人生を計算的にみてしまい、自分に出てきた計算で自分の人生を歩むならば、それは“神さまの愛のため”ではなく、自分としての“よりよい生き方”として生きるだけで、信仰も何も無くなってしまふことでしょう。

毎日を“生きるとき”、なるべくマイナスのものは早く吐き出し、なるべく、いつも心を“お天気にすることが大切”としみじみ感じ、それを実行しようと思うこの頃です。

お告げのフランシスコ姉妹会

S r. 熊田 照子



1月3日
主の公現

新しい年が明けました。

諸人こそぞりて祝いまつり、初春を寿ぎ、この一年がよい年であるようにと祈願します。一年の計は元旦にありということで、今年こそはあれを、これを、と計画を立て、目標を掲げ、達成することを願い、誓い、約束します。

一年の始まりにあたって、身をひきしめる決意、覚悟であり、新しさへの期待、希望です。こうして清々しい気持ちで新年の一步を踏み出します。

少し前のことになりますが、新聞紙上に作家であり臨済宗の僧侶でもある玄侑宗久氏の「はるかな誓願を持つ」という文章が載っていました。私はそれに強く心惹かれ、この数カ月余り常に心に留め思いめぐらし、身の内を揺り動かし続けてきました。

一部分の一節ではありますが次のようにあります。

『不殺生戒が仏教発生以来、ずっと変わらず続いてきたのは、それが結局は遵守不可能であるからだ』

自分が生きるためには、動物、植物を含めて生きものを殺生しなくてはならないことを、懺悔し続け、更にまたどこまでも不殺生を誓い続けていくのだと云うのです。

『それほど実現不可能な戒をどうして立てるのか不思議に思う方もいるに違いない。しかしそれはあまりに合理性に慣れすぎた考え方と云えるだろう。実現不可能であるからこそ戒は永遠のものになる。不偷盗戒（盗むな）も不淫戒（交わるな）も不妄語戒（ウソつくな）も、つきつめれば完璧な成就が不可能であるゆえに永遠の誓いなのではないか。不可能を目指しつづける人間は、たぶん美しくなる。』

このような文章が長いこと心を占めて揺さぶり続けるのは、何故なのかと思っています。ひとつには、何という深遠な、夢みるようなロマンに満ちた激しい志であるのかと、思わず息がつまり、唸ってしまうほどの感動を覚えたこと、そこにある僧侶としての命をかけた精進に魅了され、心動かされたこと。それともうひとつ、キリスト者である私自身の内に同種のものというのか、似通ったものの存在を感じることに。

私たちは「天におられる私たちの父よ」と呼びかけ、「主イエス」と心の底で叫び、「マリアさま」と涙のうちに求め、願いをききいれてください、守ってください、助けてください、あわれんでください、どうかしてください、と

雑多と云っていいさまざまなことを願い、祈り、誓います。

必死の祈りがきき遂げられ、願い続けたことが叶うことの喜びは如何ばかりかとうかがうことができます。年月をかけて解決できたこと、達成したことの安堵感もどれほどのものかと察することができます。そのことを十分に心した上で、今ひとつの側面を考えてみるのですが、成就すること、叶うこと、達成することは或る段落です。云ってみればそれはひとつの終わりと云えないでしょうか。

実現不可能のことを誓いつづけ、叶うことのない願いを願いつづけるとは本当にはどういうことを云うのでしょうか。

もしかしたら、願いつづけること、誓いつづけることが、きっとこの世だけに限ってはいないのかもしれない。願いが叶うこと、誓いが成就することを自分のものにしないでいいのかもしれない。成就そのことを意識にのぼらせないというのか、誓願そのものが自分を越えているというのか。

私の聖書の頁数は1800頁にも及びます。

膨大な頁の一番最後の最後のことばは、「アーメン 主イエス きたりませ」です。玄侑氏の文章が私自身の内で激しく響き合い、呼応するものは、このことばであるのかもしれないと思いました。

このことばは、確かにもうすでに成就していることです。また同時に、確かにいまだ成就していないことです。

「アーメン 主イエス きたりませ」と私はというより私の魂はこのことを日々刻々いのちをかけて祈り、願いつづけていることを、私は深く知っています。信じています。

目に見えないものに瞳を向けてしっかりと出合い、聞こえない声に耳を傾けしっかりと応答し、届くことのない地点にしっかりと歩を運ぶ。

達成の如何を問わず、合理に墮すことなく、命の呼吸のように文字通り命懸けで願いつづける。

そうであるなら、この私の人生は何があろうとも幸せであると同時に、玄侑氏のいうように、たぶん美しいものであるかもしれないと、今、満ちる恵みに耐えがたく、頭を垂れるのです。

いのちの言葉 12月

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。
人々が、あなたがたの立派な行いを見て、
あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。
(マタイ 5・16)

光は「立派な行い」のうちに表れます。キリスト者の果たす良い行いを通して、光は輝きます。

でも、あなたは言われるかもしれません。「良い行いをするのは、キリスト者だけではないでしょう。他の人々も社会の発展や正義の促進に協力しています」と。

そのとおりです。たしかにキリスト者もこうしたことをすべて行うべきであり、すでに果たしてもいるでしょうが、キリスト者本来の役割は、そこに限られるものではないでしょう。キリスト者は、一つの新たな精神をもって、良い行いをするよう招かれているのです。その精神は、私たちの内に、自分ではなく、キリストが生きるようにしてくれるものです。

実際、福音記者マタイが、このみ言葉の箇所を念頭に置いているのは、個々の愛徳の行い（刑務所を訪問したり、服のない人に衣服を持っていったりすることや、現代の必要性に應える様々な憐れみの業など）だけではありません。キリスト者の生活が全面的に神の御心に沿うものとなり、私たちの生活そのものが良い業となるようにすることです。

これを実践するキリスト者は、「透明な存在」になるでしょう。そして、その行いに対する賞賛は、その人自身

ではなく、その人の内におられるキリストに向けられることでしょう。この人を通して、神は世の中に存在されるでしょう。キリスト者の務めとは、自分の内に住まうこの光を輝かせること、人々の間におられる神の現存の「しるし」となることです。

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

もしキリスト者個人の良い行いが、こうした特徴を持つなら、世の只中に置かれるキリスト者共同体も、同様の役割を担っていることになります。すなわち、共同体の生き方を通して、神の存在をまわりに示すことです。二人三人が神の名において一致するところには、神がおられます。この神の存在は、世の終わりまで約束されています。

初代教会では、今月のみ言葉がとても大切にされていました。特に困難や中傷に遭う時、それに暴力で応えぬよう、教会は諭していました。キリスト者のとる態度こそ、受けた中傷が真実ではないことを証明する一番の方法になりえたからです。

テトスへの手紙にはこう記されてい

ます。「万事につけ若い男には、思慮深くふるまうように勤めなさい。あなた自身、良い行いの模範となりなさい。教えるときには、清廉で品位を保ち、非難の余地のない健全な言葉を語りなさい。そうすれば、敵対者は、わたしたちについて何の悪口も言うことができず、恥じ入るでしょう。」¹

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

今日にあっても、キリスト者の生きた生活は、人々を神に導く光となります。

ある出来事をご紹介します。

イタリアのサルデニア出身のアントニエッタは、仕事のためフランスのグルノーブルで生活していました。事務の仕事をしていましたが、同僚の多くは、働く意欲のない人たちでした。でもアントニエッタは、キリスト者として生き、皆の中にイエスを見出し、イエスに仕えるよう努めていました。皆を助け、いつもおだやかで、微笑みをたやしませんでした。時折、腹をたてた同僚が、声を荒立て、彼女に八つ当たりすることもあり、「働くのがそんなに好きなら、私の分もやってよ！」とからかわれることもありました。

それでもアントニエッタは、黙って、一生懸命働きました。同僚が悪い人たちではなく、それぞれが苦しみを抱えているかもしれないと、知っていたのです。

ある日、同僚のいない時、課長がアントニエッタのところに来て、尋ねま

した。「君がいつも忍耐強く、微笑みをたやさない理由を教えてくださいな。」

「なるべく落ち着きを失わないようにして、物事を良い方に解釈しています」とアントニエッタが答えると、課長は机をこぶしでドンと叩き、大声で言いました。「違う！神が関係しているはずだ。私はこれまで神など信じていなかったが、神なしではありえない！」

数日後、アントニエッタは部長室に呼ばれ、別の部署に移動するよう指示されました。部長は言いました。「君がここでしてくれたように、新しい所も変えてもらいたいんだ。」

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

キアラ・ルービック

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのちの言葉は、1979年8月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ：

03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：[フォコラーレ](http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

¹ テトス 2・6-8

雲よりも高き所に出でて見よ何とて月に隔てやはある

故なくて唯さめざめと泣きし夜半知りぬ我まだ我に背かぬ

西田幾多郎 寸心

伊藤宏見著 『西田幾多郎 心象の歌』より著者の許可を得て掲載

カルメル会の企画案内



2010年

カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：父よ、すべての人をひとつにしてください

—司祭職と私たち—

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会（Tel. 03-3704-2171）
日時：下記の各日曜日 午後二時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

- 2月21日（日） 中川博道（カルメル修道会司祭）
「司祭であるキリスト」
- 2月28日（日） 森一弘（東京教区司教）
「教会のいのちの源泉としての信徒」
- 3月7日（日） 松田浩一（カルメル修道会司祭）
「司祭とアヴィラの聖テレジア」
- 3月14日（日） 九里 彰（カルメル修道会司祭）
「魂の牧者 十字架の聖ヨハネ」
- 3月21日（日） ベアトリス・デクンハ（カルメル宣教修道女会）
「司祭の愛と共にある小テレジア」

上野毛霊性センター '09年12月～'11年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 新井延和神父

2009年度 (09年は、土曜日 夕食～日曜日16時)

⑦ 2010/ 2月27日～28日

※①～⑥終了

2010年度 (毎回金曜日 夕食～土曜日16時)

① 4月 9日～10日

② 6月 18日～19日

③ 9月 10日～11日

④ 11月 12日～13日

※2010年は、上述日程での深読黙想(指導:新井延和神父)となります。

2. 奉獻生活者のための黙想会

2010年度

A 7月20日(火) 夕食～7月29日(木) 朝 松田浩一神父

B 7月31日(土) 夕食～8月 9日(月) 朝 福田正範神父

C 8月11日(水) 夕食～8月20日(水) 朝 中川博道神父

D 11月 2日(火) 夕食～11月11日(木) 朝 福田正範神父

E 12月27日(土) 夕食～ 1月 5日(水) 朝 中川博道神父

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時)

2009年間共通テーマ《祈りを深める》

2010/ 1月28日 主の祈り

松田浩一神父

2010年間共通テーマ 《道》

4月22日 神の愛に包まれる道 松田浩一神父

6月17日 主よ、あなたの道を教えて下さい 福田正範神父

9月16日 真福八端を生きるイエスの道 今泉 健神父

11月18日 神の国への道
1月20日 荒野をゆく道

ベルナルド神父
中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時～16時)

2009年度

2010/2月12日 聖エリア 中川博道神父

2010年度

5月21日 三位一体のエリザベット 福田正範神父
7月 9日 カルメル山の聖母 ベルナルド神父
10月29日 アピウの聖テレジア 福田正範神父
12月17日 リジューの聖テレジア 今泉 健神父
2011/ 2月25日 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

5. 「社会人のための心の休息」一日常のキリスト教霊性を求めて一

(毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時) 新しい企画

松田浩一神父

2009年度

⑦ 2010/ 1月29日(金)～30日(土)

⑧ 2月26日(金)～27日(土)

※①～⑥ 終了

2010年度

① 4月23日(金)～24日(土)

② 5月14日(金)～15日(土)

③ 6月25日(金)～26日(土)

④ 7月 9日(金)～10日(土)

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6.青年黙想会(男女) 中川博道神父・神学生
 5月22日(土) 16時 ~23日(日) 16時
 11月20日(土) 16時 ~23日(火) 14時

7.召命黙想会(男女) 中川博道神父・神学生
 10月9日(土) 16時 ~11日(月) 16時

8.祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】・・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

2010 4月1日(木)~4日(日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2010 12月24日(金)~25日(土) 《講話なし、夕食なし》

9.特別黙想会 伊従信子NDV テーマ:「私は神を見たい」

5月28日(金) 20時~30日(日) 16時(28日は夕食を済ませてご参加ください)
 10月15日(金) 20時~17日(日) 16時(15日は夕食を済ませてご参加ください)

10.待降節黙想会

2010年12月 3日(金) 夕食なし~5日(日) 昼まで 指導:カルメル会士

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
 またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
 のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2009年～2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

了 7月21日	了 7月24日
了 9月8日	了 9月11日
了 10月27日	了 10月30日
了 11月24日	了 11月27日
了 12月15日	了 12月18日
2010年 1月19日	1月22日
2月23日	2月26日
3月9日	3月12日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

木曜黙想会

主の祈り

主イエスが弟子たちに教えた祈りを私たちは「主の祈り」といっています。毎日、単純にこの「主の祈り」を祈っていますが、内容は豊かです。この豊かな祈りを少し黙想してみませんか。

2010年1月28日（木曜日）10時～16時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

会費：3500円

持参するもの：ノート、筆記のみ



お問合せ・お申込みは TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



1月10日
主の洗礼

『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的廻解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い霊的同伴(一人 30分)を行います。
- メソッドの一つとしてユークティングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちにされるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- ① 2010年 1月29日(金)～30日(土)
- ② 2月26日(金)～27日(土)
- ③ 4月23日(金)～24日(土)
- ④ 5月14日(金)～15日(土)
- ⑤ 6月24日(金)～26日(土)
- ⑥ 7月 9日(金)～10日(土)

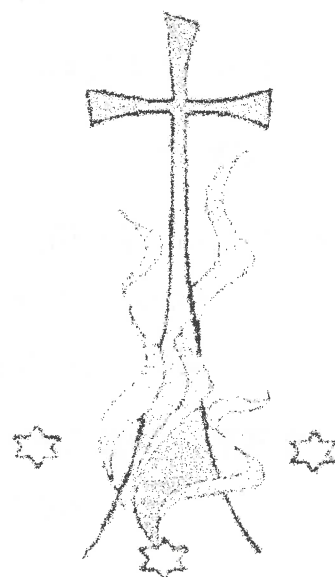
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 03-5706-7355、Fax 03-3704-1764
 E-Mail:mokusou@carmel-monastery.jp



聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：① 2009年12月19日（土）18時～20日（日）16時 了

② 2010年 2月27日（土）18時～28日（日）16時

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一朗著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



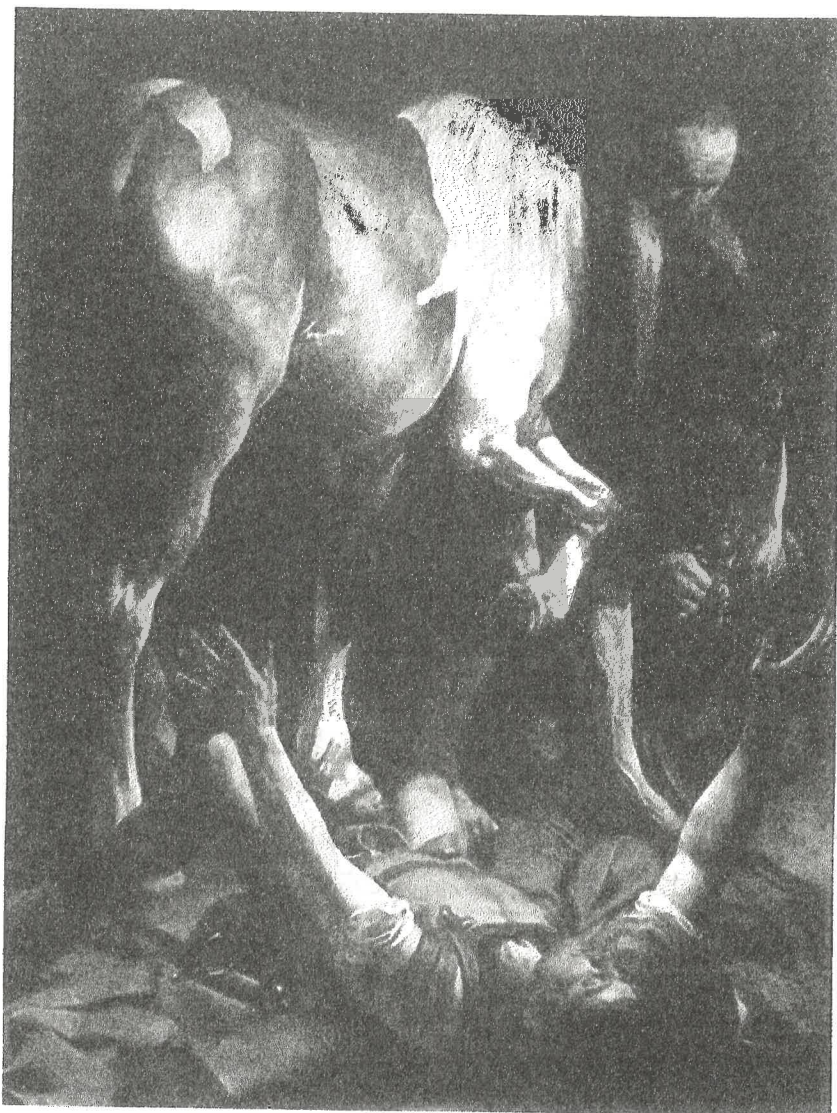
お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



カラヴァッジオ「パウロの回心」

1月25日

パウロの回心

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

1月23日(土)～24日(日)

渡辺幹夫神父

3月 6日(土)～ 7日(日)

九里 彰神父

一日 (午前10時から午後4時)

2月13日(土)

新井延和神父

4月10日(土)

渡辺幹夫神父

6月26日(土)

新井延和神父

10月30日(土)

九里 彰神父

12月11日(土)

新井延和神父

2. 一般のための黙想

一泊二日 (午後5時～午後4時)

5月29日(土)～30日(日)

互いに愛し合うこと 新井延和神父

7月10日(土)～11日(日)

マリア、喜びの人 渡辺幹夫神父

9月25日(土)～26日(日)

幼子の平和 九里 彰神父

11月20日(土)～21日(日)

神の国が始まる 新井延和神父

六泊七日 (午後5時～午前9時) ※修道者も可能

4月29日(木)～5月5日(水)

復活した主との出会い 九里 彰神父

3. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

1月 6日(水)

キリスト教と礼拝

九里 彰神父

2月 3日(水)

祈り

新井延和神父

3月24日(水)

最後の晩餐

渡辺幹夫神父

4月21日(水)

復活の喜び

アダミニ神父

5月12日(水)

生きておられる主

九里 彰神父

6月 9日(水)

司祭と聖体

渡辺幹夫神父

7月21日(水)

カルメル山の聖母マリア

新井延和神父

9月15日(水)

福音と共にキリストに従う道

Sr. ポーリン

10月13日(水)

アビラの聖テレサ

アロイジオ神父

11月10日(水)

三位一体のエリザベット

伊従信子師

(3の続き)

12月15日(水) 御言葉は人となった 九里 彰神父

4.四旬節の黙想(午後5時~午後4時)

3月13日(土)~3月14日(日) 新井延和神父

5.待降節黙想(午後5時~午後4時)

2010年12月 4日(土)~12月5日(日) 渡辺幹夫神父

6.聖テレーズの黙想(午後5時~午後4時)

9月30日(木)~10月 1日(金) 伊従信子師

7.召命黙想会(午後5時~午後4時) 対象:40才以下の青年男女

5月 8日(土)~5月 9日(日)

収穫は多いが働き手は少ない

九里 彰神父

8.奉獻生活者の黙想(午後5時~午前9時)

2009年度

12月26日(土)~1月4日(月)

新井延和神父

2010年度

8月 2日(月)~8月11日(水)

新井延和神父

8月18日(水)~8月27日(金)

九里 彰神父

10月12日(火)~10月21日(木)

九里 彰神父

12月27日(月)~ 1月 5日(水)

新井延和神父

・ 9.青年のための黙想(午前10時~午後5時) 男女性のため

11月 6日(土)~11月7日(日)

今泉 健神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時~午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

～都会の中の一泊静修～(2010)

この会は、現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:20)とされました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『混沌の時代を生きる道筋を探して』としました。

このテーマを通して、聖書のみ言葉やそれを生きるカルメルの聖人たちの言葉を通して、キリストの光を受け、混沌の時代を生きる私たちが、生きるための道筋を探していくことができますように・・・

第1回	1月11日(月)祝	信仰者の租、アブラハムの歩み	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月20日(土)	問題性からの脱出の道・同伴する神	松田浩一神父 (上野毛修道院)
第3回	3月22日(月)祝	解放への道、十戒：荒野で与えられた生きる規範	中川博道神父 (上野毛修道院)
第4回	4月24日(土)	主が教えてくださった祈りの道	新井延和神父 (宇治修道院)
第5回	5月22日(土)	聖テレジアの示した道	松田浩一神父 (上野毛修道院)
第6回	6月26日(土)	真福八端を生きる道	今泉健神父 (上野毛修道院)
第7回	7月19日(月)祝	カルメル山登攀の道～十字架の聖ヨハネの示した道～	九里彰神父 (宇治修道院)
第8回	9月18日(土)	貞潔で、貧しく従順な方イエスに従う歩み	Sr.バウリナ (宣教カルメル修院)
第9回	10月30日(土)	小さき道、幼いイエスの聖テレジア	Sr.ベアトリス (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(火)祝	主が教えてくださった新しい道の道、隣が愛したように	三上和久神父 (三馬修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 参加費 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約30名

* プログラム

- 10:00～ 祈り・導入・黙想
- 10:30～ 講話【1】
- ～(赦しの秘跡または面接)
- 12:15～ 昼食
- ～(赦しの秘跡または面接)
- 13:30～ 講話【2】
- 14:45～ ミサ
- 15:30～ 茶話会・分かち合い
- 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へVカキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル靈性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

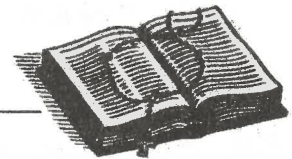
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

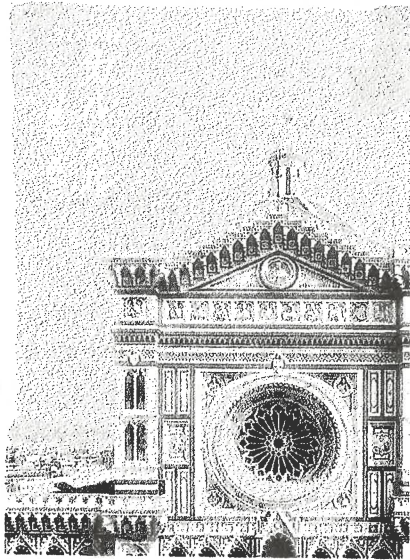
所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

「観想」を読むー



2009
カルメル
特集号



特集「聖に光る」
ー現代社会に育生する新しい神との出会いー

- 教会二千年史の歴史を振り返る
聖人の人脈と信仰の発展と未来志向を
追(む)いてきた歴史
- 第二ヴァチカン会議
新しい風潮のなか、神のしるしを探み取る
- 聖霊と信仰
五百年間の中での神との出会い
- 日本の教会の歴史と
ーフェリスティアーノ・カヴァーニャー
- ー大塚英典
- ー高橋神夫
- わたしはこの目であなたの息を見たからです
ー高橋神夫を生きる光を探してー
- ー中川博道

雑誌「カルメル」NO335 (2009年冬号)「今日の靈性」

- 馬屋の靈性 (4) ーイエスを拒む者と受け入れる者 …高橋重幸
- マリアの旅 (6) …中川博道
- 今日の歌 (6) …ペトロ・アロイジオ
- 「どこにお隠れになったのですか」(2)
ー十字架の聖ヨハネに見る靈的旅路 …九里 彰
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット (12)
ー「生きているのはもはやわたしではない わたしのうちにキリストが生きておられる
…伊従信子
- 「小さい道」の巡礼者 (7)
ーテレーズの修練者ー三位一体のマリー …中山眞里
- 聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて …マリー・エウジェンヌ
編・訳 伊従信子
- 「ヨハネの黙示録」をどう読むか
ーシスター今道に導かれて …谷口正子
- 愛の断章 (14) …奥村一郎

「御胎内の御子イエスも祝せられたもう」

…高橋重幸

マリアの旅 (5)

…中川博道

今日の歌 (5)

…ペトロ・アロイジオ

「どこにお隠れになったのですか」

—十字架の聖ヨハネに見る靈の旅路

…九里 彰

エリザベットの「魂のこだま」、ギット (11)

—同じ理想を目指して

…伊従信子

エディット・シュタイン

—ユダヤ人の改宗者、そしてカルメル会の殉教者

…ベアトリス・デクンハ

「小さい道」の巡礼者 (6)

—テレーズの修練者—三位一体のマリー

…中山眞里

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (26)

—マリア

…伊従信子

愛の断章 (13)

…奥村一郎

雑誌「カルメル」 2009年特集号 発売中

「闇に光を」 —現代社会に芽生える新しい神との出会い—

購読のご案内

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号+特集号、送料込み) として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、

『完徳の道』 『靈魂の城』 (以上2冊、ドン・ボスコ社)



諸所の企画案内



心のいほり

真命山霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会
マリアの御心会

※ お知らせ

2009年・10号より、諸所の企画記事を
編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、
念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の
掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

内観黙想の予定表

2010年予定

M1 1/10(日)2時-1/16(土)2時
兵庫・売布・女子御受難会
(6泊7日)

K1 1/28(木)2時-2/3(水)2時
東京・小金井・聖霊会 (6泊7日)

Y1 2/13(土)2時-2/19(金)
2時 神戸・須磨・ヨハネ (6泊7日)

M2 02/26(金)2時-03/04(木)2時
兵庫・売布・女子ご受難会
(6泊7日)

K2 03/14(日)2時-03/20(土) 2時
東京・小金井・聖霊会 (6泊7日)

F1 4月16日(金)2時-4月22日(木)
2時 福岡・御受難会黙想の家
(6泊7日)

N1 04/29(木)2時~05/05(水) 2時
滋賀・唐崎・ノートルダム (6泊7日)

先の予定表と若干変わっていますので、
開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円
です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせ
てください。

電話では取り次いでおりません。申し込みは
会場予約準備がありますので、10日前迄に
完了をお願いします。

◎572-0001

大阪府寝屋川市成田東町3-27
「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072・802・5026
<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約に決まった後に、会場までの詳しい
地図などの書類をお送りします。

お知らせ

2009年10月号より、掲載スペースの関係上、諸所の
黙想企画記事を、編集部で集約して打ち込みました。
各御担当者の皆様どうぞご了承ください。

センターニュース
編集係

真命山 2010年祈りの集いのご案内

通年テーマ:教父の祈りを学ぶ

祈りの集い(毎回午前10時~午後2時半)

1月14日	ローマの聖クレメンス	フランコ神父
2月11日	アンティオケイアの聖イグナチオ	ダニエレ神父
3月11日	聖キュプリアヌス	フランコ神父
4月 8日	聖アンブロシウス	ダニエレ神父
5月13日	聖ヒエロニウムス	フランコ神父
6月10日	聖アウグスチヌス	ダニエレ神父
7月 8日	聖アフラハト	Sr.マリア
8月	お休み	
9月9日	聖エフラエム	Sr.マリア
10月14日	聖ベネディクトゥス	フランコ神父
11月11日	大聖グレゴリウス	フランコ神父
12月 9日	ロマノ メロドス	Sr.マリア

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流
センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeian@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。

(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペ
ホール。どなたでも。聖書に基づきキリ
スト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～
20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3
階アルペホール。キリスト教の基礎知識
を持っている方。2年間のコース。信仰理
解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト
教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 下記の土曜日

9時30分～11時、また11時15分～
12時45分、岐部ホール4階404、2つの
講座・セミナーでキリスト教関係の思
想・哲学・神学を考察します。思想史と
キリスト教の関係に関心を持っている
方、プログラム等に関してHP(文末)を
見よ。2010年1月9日、16日、23日、30
日。2月13日、20日。

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultウルハイム1階左の
部屋。祝日を除く。3回座り、間に講話
があります。どなたでもどうぞ。初心者も
歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

●接心

(上石神井)
2010年2月6日(土)8時30分～7日(日)
15時30分 5,900円程度

●ミサ 水曜日 17時10分～18時
上智大学内 Kultウルハイム1階
右小聖堂どなたでも。(但し、休日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時
上智大学内SJハウス第5会議室
黙想、講話、ミサがあります。
2010年1月9日、2月20日、3月6日
ロザリオの祈り 同日16時10分～50分
Kultウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】
毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
(但し、祝日休) 12月25日(金)はクリスマスの
黙想(予定)。

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～11時55分 聖イグナチオ教会
マリア聖堂 但し、祝日休。

【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内 Kultウルハイム1階右小聖堂。
どなたでも。但し、祝日休。

●黙想会

2010年3月13日(土)10時～14日(日)15時、
上石神井。一泊5900円程度。

●アガベ会

下記の日、説明会(13時30分)と集い、
ミサ(14時～18時)、上智大学内
SJハウス第5会議室
2010年1月23日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座2009年～2010年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 1/8 希望を持つ勇氣
－未来に向かって歩む
- 1/15 霊の動き－福音による生き方
- 1/22 聖書と教会
－信仰の基盤となる言葉
- 1/29 秘跡と教会生活
－毎日を養う信仰
- 2/5 神の言葉
－神との日常的な
対話と黙想の仕方

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座2009年～2010年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

(2/2迄のテーマ「日常生活」)

●2010年 1/5 お休み

●1/19 仕事と余暇
－能力の活性化と人生の実り

●2/2 困難と苦しみ
－謙遜な自己奉獻と導きへの信頼

(2/16以降のテーマ「信仰生活」)

●2/16 教会生活とミサーキリストの体の神秘

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール
TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父
102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124{直通}
-5111{伝言}
Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ(ノートルダム・ド・ヴィ)

「いのちの泉へ」

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

2010年1月23日(土)

次々回の予定 2月20日(土)

講話 伊従信子・片山はるひ
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-7580

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com

◎交通

JR京都駅から湖西線で三つ目

「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎日程

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

⑥12月27日(日)～

2010年1月4日(月)

※①～⑤終了

B. 祈りの体験:週末3日間

(金曜の夕食～日曜の昼食)

「神との親しさの中で日常を生きるために」

※2009年度終了

◎対象

信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎霊的同伴者

トニー・プロドニヤック(メリノール宣教師)

安井昌子(ノートルダム教育修道女)

菊池陽子(ノートルダム教育修道女)

松本佳子(ノートルダム教育修道女)

◎申し込み

1)名前、2)住所、3)電話番号、

4)希望日程(番号)を書いて郵送、

または、FAXで「黙想係」安井昌子へ

申し込んでください。唐崎修道院への

案内地図の必要な方は、その旨を

書き添えてください。

いずれの場合も、10日前までに申し込んで

ください。先着順15名です。

◎その他

受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。

問い合わせは、電話 または、e-メールをご利用ください。

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

マリアの御心会・信濃町共同体

タイトル:「来て、見なさい」プログラム

私が私らしく生きるために ~自分の将来を真剣に祈る~

内容) 一日黙想会と2泊3日黙想会を1シリーズとし、自分の将来について集中して祈り考える企画。

第1回 2010年1月17日(日) サリ・アガステイン神父(イエズス会)
-私はあなたを創造した-「私の人生の目的・神さまの深い望みはなに？」

第2回 3月14日(日) 森 一弘 司教
-おことばのとおり、この身になりますように-「私に与えられた使命は何？」

第3回 4月18日(日) 塩谷恵策 神父(イエズス会)
-私があなただを選んだ-
「わたしの呼ばれている道は？結婚・独身・修道生活」

第4回 2泊3日黙想会
5月 1日(土)~3日(月) 英 隆一郎 神父(イエズス会)
「私が私らしく生きるために」
-自分の将来を真剣に祈る-

場所: 第1回~3回 10時~16時 マリアの御心会信濃町共同体
会費1,000円(昼食付き)

第4回 5月1日(土)15時~5月3日(月)15時
長野県富士見 マリアの家(マリアの御心会・山の家)
場所は変更の可能性もあり。

対象: 40歳前後までの独身女性

申込締切:第1~3回は、開催日の3日前まで。

第4回宿泊黙想会は、4月16日(金)まで。

※各回ごと、黙想会のみ参加も可能ですが、出来るだけ継続的な参加をお勧めします。

申込方法: 電話にて マリアの御心会信濃町共同体
電 話: 03-3351-0297

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》 投稿規程 《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、^{くのり}九里 彰神父宛にお願いいたします。i住所が変わります!
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院
Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください!!

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

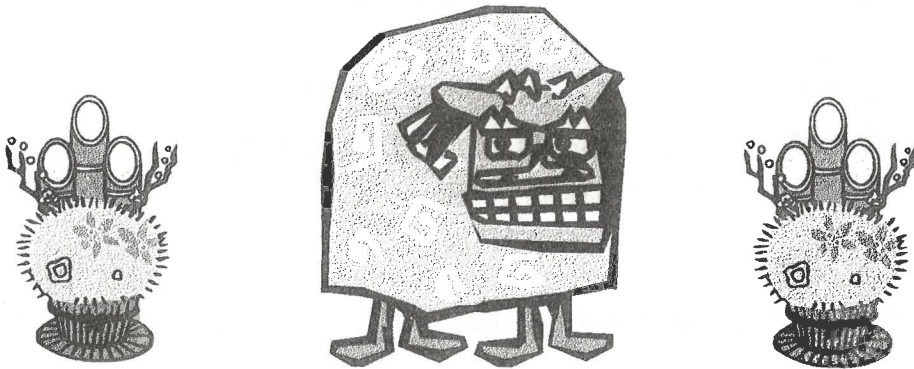
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年も靈性センターニュースをよろしくお願いたします。新年号は250号となり、一つの区切りでしょうか。毎月、皆さまの献金に支えられ、紙を購入、印刷、製本しております。有難うございます。

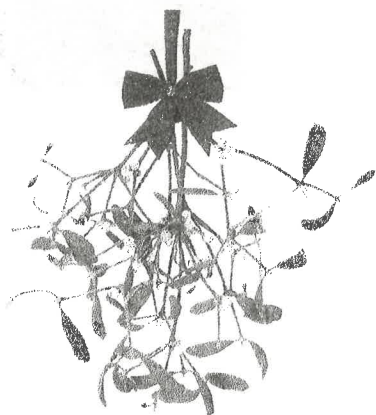
製本（綴じ）は、手作業でやっておりますので、手が足りなくなってきました。高齢化の波も押し寄せています。一時間でも二時間でも、お手伝いしてくださる方（途中でお帰りになってもかまいません）、どうぞお気兼ねなくおいでください。

それにしても続けることは、何でも大変ですね。続ければいいというものではありませんが、それによって、困難を乗り越えて、成長してゆくことができるのでしょうか。職場も家庭も修道生活も……

さて、今年はどうな年となるのでしょうか。世界がまた一步、「カピタリズム」を越える福音的な世界、神の国に近づきますように。今年一年、皆さまの上に、主の豊かなお恵みが注がれますように、スタッフ一同お祈り致します。 (P. 九里)

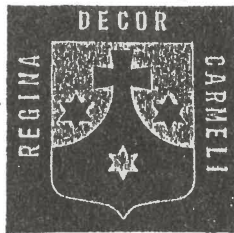
今年もカルメル霊性センターニュースのために、ご援助
ご協力をありがとうございました。皆様の励ましに応え、
紙面の充実に、よりいっそうの努力をしてゆきたいと思っ
ております。これからも皆様の暖かいご支援をお願い
申し上げます。新しい年が主の豊かな恵みで満たされ
ますよう、お祈りいたします。

祈りと感謝！



Merry Christmas
& a Happy new year

カルメル霊性センター事務局



あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことができます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「2月号」製本日 1月26日（火） 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171